

平成 28 年 4 月 25 日

担当 都市整備部

氏名 関 淳一

電話 内線 2381

稲村ガ崎における下水流出事故について

平成 28 年 4 月 23 日にお伝えしました稲村ガ崎における下水流出事故について、現在の状況をお伝えします。詳細は、別添のとおりです。

稲村ガ崎における下水流出事故について

1. 事故の内容

稲村ガ崎の法面の崩落に伴い、国道 134 号の歩道部に埋設している市の下水道汚水圧送管の防護措置を講じようとした際に、その継手部分からの漏水を発見したため、ポンプ場からの送水を停止し、消毒剤を投入した上で、ポンプ場東側の海岸護岸脇から海へ下水の放流をしています。

2. 発見から現在に至る経過

平成 28 年 4 月 14 日に稲村ガ崎の法面が崩落したことにより、国道 134 号沿いの歩道が陥没しました。

国道の歩道内には汚水圧送管（φ800 mm）が埋設されているため、道路管理者である神奈川県との協力を得て、防護対策の準備を進めていましたが、4 月 22 日の午後 3 時ごろ、汚水圧送管の継手部分から漏水が発生していることを確認しました。

既存の汚水圧送管は、管の下側の地盤が崩落しているため、根本的な対策が必要であり、相当の時間を要することから、緊急措置として、同日午後 9 時ごろから鎌倉市坂ノ下付近にある鎌倉市公共下水道西部ポンプ場からの圧送を停止しました。

これに伴い、やむを得ず同ポンプ場に集まる汚水に消毒剤を投入した上で、一時的にポンプ場東側の道路護岸から海へ放流せざるを得ない状況となっています。

3. 流出の規模

約 17,000 世帯の下水で、その推定量は約 22,000 立方メートル/日です。

4. 対応状況

・市の対応

漏水箇所の 2 次被害を防止するため、西部ポンプ場からの圧送を停止し、汚水の滅菌処理を行い海に放流しています。また、放流箇所付近の 8 箇所について水質調査を実施しています。

・関係団体への連絡

県横須賀三浦地域県政総合センター、鎌倉漁業協同組合、腰越漁業協同組合、鎌倉マリンスポーツ連盟等へ報告しました。

5. 今後の対応

既存の圧送管は、管の下側の地盤が崩落していることから部分的な補修では困難であることが判明したため、応急的に別ルートを確保することで、4 月 28 日中の送水再開を目途に、仮設管設置作業を進めています。

また、破損した管きよの本復旧についても引き続き検討しています。